2025年度日系社会研修 コース概要

NO.	10
所管センター	九州
分野	医療・介護・高齢化対策
研修コース名（日）	早期胃癌の内視鏡診断と治療
受入人数	5
受入時期	上半期
来日日	2025年5月11日（日）
帰国日	2025年6月13日（金）
提案団体（日）	国立大学法人 九州大学
提案団体 ウェブサイトアドレス	http://plaza.umin.ac.jp/imed/en/index.html
研修員必要資格	医師（内視鏡経験が1年以上で年齢60歳以下） 経験年数：医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上
研修員に必要な 実務経験年数	その他（必要資格欄に記載）
日本語能力（選択） ※日本語能力試験認定の目安参照	不問
英語能力（選択）	英語でのコミュニケーション可
研修目標	世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ
期待される成果 （習得する技術）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習熟できる ・次世代型トレーニングモデルや豚切除胃を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術とコツを学ぶ ・帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ・インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する
研修計画 （内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2. 見学：九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論 3. 実習：粘膜モデルやブタから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習 4. 学会参加：日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加 5. 発表：病院内で研修内容を発表
本研修実施の意義 中南米日系社会への裨益効果	<p>日本での研修を通じて、日本語を学びながら日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新の機器を用いた世界トップレベルの内視鏡診断法、治療法について学習することを目的とする。さらに研修期間中に学会にも参加し、これからの内視鏡診療と開発中の技術についても学ぶ。このようにして技術や知識を習得し、帰国後は自国の内視鏡診療の発展だけでなく、自国語と日本語を理解することで現地と日系人社会との橋渡しとなって、現地日系人社会への充実した内視鏡診療の提供と早期胃癌発見率増加へ貢献できる人材を育てる。このように、このプロジェクトで研修した医師は中南米における日系人の健康寿命増進とQOL（生活の質）向上に寄与できると思われる。また内視鏡機器の分野は日本製品が世界シェアの80%以上を占めており、現地日系社会の医療分野での貢献のみならず、日本製品の輸出振興への寄与が期待される。もし感染症などによる渡航制限がある場合には当院での現地研修の代替として、内視鏡診断・治療のオンライン研修を予定している。当院はこれまで海外医療施設と1500回以上の遠隔医療教育プログラムを開催し、中南米諸国とも内視鏡に関するテレカンファレンスを定期的に行っているうえ、2020・2021年度の日系社会研修員受入事業をオンライン研修として行った実績もある。</p>
応募希望者への特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力不問 ・宿舎は外国人研究員等宿泊施設（馬出）または九州大学病院までアクセスの良いホテルに宿泊の予定。外国人研究員等宿泊施設の立地・設備等についてはホームページ参照のこと (https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/teacher/accomodation#teacher_acc_1)